



2017 ~ 2018 年度  
R I テーマ

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

ロータリー: 変化をもたらす

国際ロータリー会長

イアン H.S. ライズリー (国籍・オーストラリア)

2720 地区

## 別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分  
ところ ホテル別府パストラル 〒874-0036 別府市東荘園町1丁目4  
TEL (0977) 23-4201 FAX 25-3610  
事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル 3F  
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000  
FAX (0977) 23-9019  
<http://www.beppu4rc.jp/chuo/>  
E-mail: info@beppu4rc.jp

理事	佐々木久宜	理事	平野 教康	役員	会長	佐々木久宜	S A A	梶原 和朗
〃	梅津 圭二	〃	亀井 孝	副会長	梅津 圭二	直前会長	梶原 和朗	
〃	鳴海 淳郎	〃	近藤 賢司	幹事	西馬 良和			
〃	村津 忠久	〃		会計	森園 伸也			

VOL. 30 - 21  
2017年11月28日

## 第1353回例会

会報委員長 森 宗明

◆点 鐘 12:30

◆R S 別府中央R.C.の歌

◆唱 歌 七つの子

### 会長の時間

会長 佐々木久宜

皆さんこんにちは。

本日は卓話の時間を利用しての30周年準備委員会となっています。よろしくお祈りします。

次週の例会はAPUで日本語教室となっていますので場所を間違えないように気をつけてください。

今月は『ロータリー財団月間』となっております。そこでガバナー月信よりロータリー財団について少し引用してお話ししたいと思います。

『2720地区では各クラブが地区補助金を利用して地域社会へ様々な活動に利用され、その額は年間およそ700万円に上ります。こうした地区補助金の他にグローバル補助金があり、これは15,000ドル以上の高額な補助金で、6つの重点分野のいずれかにおいて、持続可能かつ測定可能な成果をもたらすことができる大規模なプロジェクトに活用できるものです。その他にグローバル補助金は財団奨学生の奨学金や国際平和フェローの奨学金などに当てることができます。このように、毎年多くのロータリークラブがロータリー財団の補助金を使って社会奉仕活動や国際奉仕活動を行っています。』

### ◆出席報告

委員長 衛藤 秀子

本日 の 出 席	会 員 総 数	25 名
	出 席 者	14 名
	事前メイクアップ	0 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	3 名
欠 席 数	出 席 率	63.64 %
	出 席 率	63.64 %
前々 回 の 訂 正	出 席 率	75 %
	事後メイクアップ	0 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	5 名
	修 正 出 席 率	75 %

連 続	一 回	
通 算	750 回	100 %

### ・メイクアップ

事前

事後

欠席 平野(教)、堀、梶原(和)、中尾、大島、森園、前田、亀井

理事会承認

出席免除 河村、溝部、木村

『ロータリー財団が世界の多くの団体とともに長く支援を行っているポリオ・プラス基金があります。

活動を始めてわずか30数年でポリオの99%が無くなりましたが、まだ撲滅に至るには時間を要し



ます。

しかし、皆さんの浄財と熱意が必ず実る日が来るはず。一つの感染症疾病が、この世界から消えるということは実に画期的なことですし、世界平和への推進にも大きな礎を残すことになりま

『ロータリー財団は、国際ロータリーの慈善部門で、ロータリアンの支援者による自発的な寄付のみに支えられています』

『クラブのロータリアンにロータリー財団の趣旨を理解していただき、少しでも多くの寄付をしていただくようお願いしてください。そうすれば地区の補助金も増加し、より効果的な奉仕活動が多く生まれるのではないのでしょうか』

ロータリー財団への寄付をよろしくお願ひします。

幹事報告

西馬 良和

—ロータリー財団月間—

1. 本日の内容  
「30周年実行委員会」
2. 喪中につき、年末年始のご挨拶をご遠慮させていただきます。  
○津末美代子会員（ご主人様）  
○佐々木久宜会員（ご祖父様）
3. 『ロータリー適用相場変更』のお知らせ  
12月1日より、全ての振込みに対する適用相場（ロータリーレート）が下記の通り変更となりますのでお知らせ致します。  
1ドル 112円（11月：114円）
4. 11月21日(火)18：30～伊太利亜食堂に於いて『別府市内4RC会長・幹事会』が開催され、佐々木久宜会長と西馬良和幹事が出席致しました。
5. 11月24日（金）9：45～別府市役所で開催された「別府市内校長会」に於いて、30周年の記念事業企画説明に後藤 隆実行委員長、佐々木久宜会長、梅津圭二副会長が出席致しました。
6. 例会変更のお知らせ  
別府北RC 12月13日(水)の例会は。年次総会・忘年会の為、同日18：00～ホテルサンバリーアネックスに時間・

場所変更

- 大分RC 12月12日(火)の例会は、クリスマス家族例会の為、同日18：30～ホテル日航大分オアシスタワーに時間・場所変更
- 大分東RC 12月14日(木)の例会は、クリスマス例会の為、同日18：30～うみたまごに時間・場所変更
- 大分南RC 12月15日(金)の例会は、クリスマス家族例会の為、同日18：30～ホテルザーズに時間・場所変更
- 別府東RC 12月14日(木)の例会は、職場例会の為、同日12：30～別府市美術館に場所変更

7. 次週例会の予定（12月5日）

「日本語会話練習ボランティア例会」

APUカフェテリア 11：45集合 ～ 食事・例会

8. 本日の回覧

- ①「第5回親睦ゴルフコンペ」出・欠席
- ②「日本語会話練習ボランティア例会」出・欠席
- ③「忘年会」出・欠席

スマイルボックス

委員長 高宮 勝美

○村津会員

12月17日（日）の「第41回大分第九の夕べ」まで余す処3週間となりました。

一昨日の総合練習に参加して、仕上がりは上々だと思いました。

本番の成功を祈念してスマイル。

○後藤会員

私は人前でお話するのは苦手なのですが、本日は30周年準備委員会ということですので、不本意ながらしゃべらせていただきます。

ご協力よろしくお願ひします。

○森会員

先週は家内と娘を卓話にお招き頂きありがとうございました。

母娘共演、幸せのかぎりです！

○梅津会員

本日、冬のお花の御案内を配らせていただきました。只今ホームページもリニューアルしております。お花の御用がありましたらよろしくお願ひいたします。



○平野(英)会員

健康でおいしいお食事が出来る事に感謝です。この年で初めて感じました。又、梅津会員より絵ハガキでプリンセチアが在る事を知りました。誰かにあげたい？

30周年実行委員会

後藤 隆

例会で実行委員会の現在の活動と進捗状況について説明し、会員の30周年に対する希望を伺った。

いろいろな意見が出たが城島高原ホテル案をメインにし中央クラブの身の丈に合った会を目指すとすることで意見の集約ができた。月に1度を目途に30周年準備例会を開き、会員間の情報の共有を図り全会員で準備を進めることが決まった。

ロータリー探究

鳴海 淳郎

91才になっても、  
なお現役で診療をつづけているわたし

NO.551 2017/7/9

1969年(昭和44年)の1月開業以来、50年近く皮膚科診療に従事していますが、その経験をもとに更に新しい治療を加味した“nothing but the best”の治療めざし、91才の年に負けずに努力したいと思います。

わたしの皮膚科医としてのルーツ

小学校時代、父から教わった昆虫採集をきっかけに、高等学校時代には「みみず」の解剖をしたり、大学時代には教授のご指導で肩甲骨の計測をしたりして、自然にものを見る訓練をさせられてきました。

また、わたしは一時精神科を選ぼうと考えたこともありますが、その一つに経済的な理由がありました。

その後東京通信病院でインターンをするようになって色々考えた末、当時の中島病院事務長が大分県佐伯出身であったこともあり、事務長の紹介もあって皮膚科部長・小堀辰治先生の教えを受けることになりました。

- ・東京通信病院時代:昭和28年(1953)1月～昭和35年(1960)3月
  - ・群馬大学時代:昭和35年(1960)4月～昭和38年(1963)9月
  - ・東京皮膚科診療所:昭和38年(1963)10月～昭和43年(1968)12月
- その後 別府に帰る。
- ・鳴海皮膚科クリニック:昭和43年(1968)12月～
  - ・皮膚科・外科・形成外科 鳴海クリニック:平成5年(1993)8月～
  - ・医療法人社団 鳴海クリニック:平成8年(1996)12月～
- 現在に至る。

医師会役員として

- ・別府市医師会常任理事として:1974年(昭和49)4月1日より3期6年
- ・大分県医師会常任理事として:1980年(昭和55)4月1日より3期6年
- ・別府市医師会監事として:1986年(昭和61)4月1日より2期4年
- ・日本皮膚科学会功労会員:1996年(平成8年)6月
- ・日本臨床皮膚科医会特別会員:2010年(平成22年)5月

その後の皮膚科医としての歩み

九大卒業後東京通信病院にてインターン終了、そのまま同病院皮膚科に勤務することになり、当時新進気鋭な恩師小堀辰治先生のご指導を受けました。

入局と同時に当時としては日本でいち早く副腎皮質ホルモン療法の研究に着手した共同研究者の一員となり、一方、アメリカで発展した新しい軟膏療法の手ほどきを受けました。そして、「副腎皮質ホルモンの円形脱毛症に対する治療効果、特にその奏効機序について」を主論文として審査をうけ、東京大学より学位を授与されたことは、私の生涯で幸せなことのひとつでした。

ついで群馬大学医学部助教授として赴任、山崎教授より記載皮膚科学の原点に触れたドイツ流の厳しいご指導を受けました。この北関東における研究生活3年間の様々な体験と、前任地である東京通信病院での8年間のいわばアメリカ流の自由な研究体験がミックスされて、今日の自分があるということに、今更ながら感謝しています。

群馬大学を辞した後、東京新橋での5年間の開業生活は、全国理美容ネットワークに乗った特殊な体験でしたが、その後別府に帰ってからの開業にかなりのプラスになりました。

父の度重なる脳梗塞の発作のために遂に故郷別府に帰り、開業することになったわけです。

開業以来、地域医療の第一線で多くの患者さんに接し、皮膚に関する啓蒙と、幅広い皮膚科医療で地域社会に密着することを夢見てこれまでやってきましたが、この間、別府市医師会理事を3期6年、大分県医師会常任理事を3期6年、別府市医師会監事を2期4年務め、私としてはまたとない経験を重ねることができました。

また、皮膚科開業医は如何にあるべきかということについて、学会シンポジウムその他で意見を述べてきましたが、とくに皮膚科の専門性を生かして包括医療をきめ細かく行ない、地域に密着することを大切にしてきました。

別府に帰省して開業後、わたしは如何に皮膚科診療を展開してきたか

この正月わたしは88歳になり、皮膚科医として丁度60年を迎えることとなります。

そこで、これを機会にわたしが歩いて来た道を振り返ってみたいと思います。



※皮膚科診療に対するわたしの考え方

・私の職業奉仕は、『常に大所高所より、あくまでも患者さんのために』にあります。

安易に患者さんの要求に応ずることのみが医師の職業奉仕ではないと思います。

・患者さんのために、常に新しい夢をもち、現時点において最善の治療が提供できるように、研鑽を怠らないことであります。

・そして、皮膚科医は単に皮膚のみならず、場合によっては皮膚を通して人間全体を考え、更には、まわりの環境をも念頭におく必要があることを考えてきました。

・とくにわたしたち開業医は、地域医療の第一線にあって多くのありふれた皮膚病患者に接するわけですから、これと積極的に取り組み、上手に治せる医師でなくてはなりません。

・そのためには、皮膚症状並びにその治療経過を細かくみることは勿論ですが、その原因なり、それを治りにくくしている背景を探るため、必要な諸検査を行い、この検査所見を参考にして皮膚症状を診、それに合わせた治療法を選び、治療経過を細かく診なければなりません。

・とくにアレルギー性皮膚疾患の場合にあっては、アレルギーに対する処置は勿論ですが、場合によっては神経、とくに自律神経ならびに内分泌の影響をも考えた、いわゆる三位一体の概念に基づいた治療が必要と思う次第です。

以上のような考えで日常診療を行っていますと、更に新しいことが分かり、その都度これをまとめて発表することにしていますが、80歳を過ぎた現在、出来るだけ年に1回、これを実行することにしています。

- ・日本臨床皮膚科学会；2回(昭和62年11月、平成元年5月)
- ・大分県医学会；1回
- ・別府市医師会学術研究会；3回
- ・日本皮膚科学会大分地方会；24回
- ・日本皮膚科学会東京地方会；1回(昭和45年7月)
- ・日本皮膚科学会・学術大会；2回(昭和54年4月、昭和58年4月)

学会発表(昭和45年7月から平成24年7月まで→33回)

1. 絆創膏皮膚炎の一考察  
日本皮膚科学会東京地方会研究会477回例会(昭和45年7月)  
※ 臨床皮膚科:24巻,12号,1185頁,昭45)
2. 手の皮膚炎<全身的背景>  
日本皮膚科学会第28回大分地方会(昭和45年9月27日)
3. 男性禿の問題点  
日本皮膚科学会第29回大分地方会(昭和46年11月21日)
4. 顔面の紅斑  
日本皮膚科学会第29回大分地方会(昭和46年11月21日)
5. 温泉と皮膚  
日本皮膚科学会第30回大分地方会(昭和47年10月1日)
6. 化粧品皮膚炎の2,3の問題点  
日本皮膚科学会第30回大分地方会(昭和47年10月1日)
7. 肝斑と血圧  
日本皮膚科学会第31回大分地方会(昭和48年10月28日)
8. いわゆる小児乾燥型湿疹とその背景について  
日本皮膚科学会第31回大分地方会(昭和48年10月28日)
9. 皮膚科領域における医原性疾患  
(各科における医原性疾患)  
別府市医師会学術研究会(昭和50年6月27日)

10. 円形脱毛症と甲状腺機能  
日本皮膚科学会第33回大分地方会(昭和50年9月7日)
11. 肝斑の診断学的意義について  
第38回大分県医学会(昭和50年10月26日)
12. 皮膚反応(パッチ・テスト)  
第78回日本皮膚科学会・学術大会(昭和54年4月11日)
13. 皮膚疾患と血圧の一断面  
医師会学術研究会(昭和58年2月22日)
14. 地域医療における皮膚科開業医  
シンポジウム「現代医療における皮膚科」  
第82回日本皮膚科学会・学術大会(昭和58年4月3日)
15. 2,3皮膚疾患の治療経過における赤沈の動態について  
日本皮膚科学会第43回大分地方会(昭和60年9月7日)
16. プライマリーケアと皮膚科専門医  
シンポジウム「皮膚科専門医はいかにあるべきか」  
日本臨床皮膚科医学会・第2回臨床学術大会(昭和61年6月28日)
17. 当クリニックにおける凍結療法の実状  
第50回大分県医学会(昭和62年10月18日)
18. 慢性蕁麻疹における非特異的減感作療法の効果検討  
日本皮膚科学会第45回大分地方会(昭和62年11月29日)
19. シロガヤ皮膚炎について  
日本皮膚科学会第46回大分地方会(昭和63年10月30日)
20. 皮膚科保険診療における問題点 パネルディスカッション  
日本臨床皮膚科医学会九州支部  
第5回総会・学術教育講習会(平成元年5月28日)
21. 皮膚科診療における凍結手術の妙味  
日本皮膚科学会第47回大分地方会(平成元年11月9日)
22. 入浴調査について  
日本皮膚科学会第50回大分地方会(平成3年6月30日)
23. 皮膚科の啓蒙について  
日本皮膚科学会第52回大分地方会(平成4年7月5日)
24. 顔の湿疹様病変を治すにあたって  
日本皮膚科学会第78回大分地方会(平成17年11月27日)
25. 長期間観察した尋常性乾癬の一例  
日本皮膚科学会第79回大分地方会(平成18年7月1日)
26. 女性患者にみられる最近の傾向と、これに対する治療法の検討  
日本皮膚科学会第81回大分地方会(平成19年7月1日)
27. 長期間観察している全身性エリテマトーデスの一例  
日本皮膚科学会第84回大分地方会(平成20年11月30日)
28. 女性患者にみられる最近の傾向と、これに対する治療法の検討  
別府市医師会会員による学術研究会(平成21年2月28日)
29. 当クリニックにおける「帯状疱疹」治療の新方針とその成績  
日本皮膚科学会第85回大分地方会(平成21年6月28日)
30. 手湿疹・その治し方の工夫  
日本皮膚科学会第88回大分地方会(平成22年11月14日)
31. 中高年の「しみ」、とくに脂漏性角化症に対するスキンケアの一考察  
日本皮膚科学会第89回大分地方会(平成23年6月26日)
32. 当クリニックにおける低出力レーザー治療の実状  
日本皮膚科学会第91回大分地方会(平成24年6月24日)
33. 三位一体の新しい皮膚科診療を提唱する  
日本皮膚科学会第93回大分地方会(平成25年7月7日)
34. 再び中高年のスキンケアを考える、  
日本皮膚科学会第95回大分地方会(2014年6月29日)
35. ステロイド外用薬の重層法による効果検討((2015年6月28日)  
日本皮膚科学会第97回大分地方会(2015年6月28日)